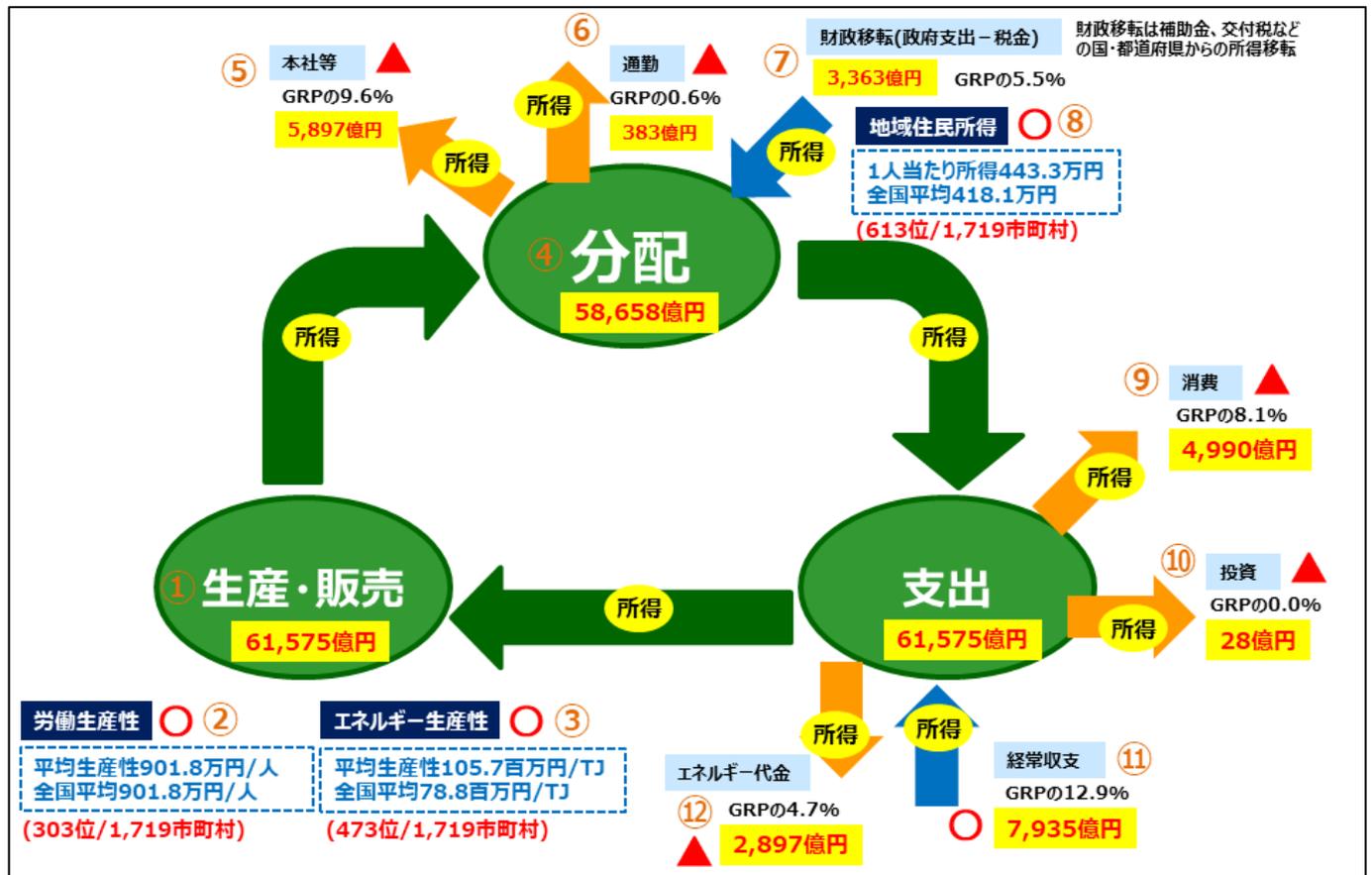
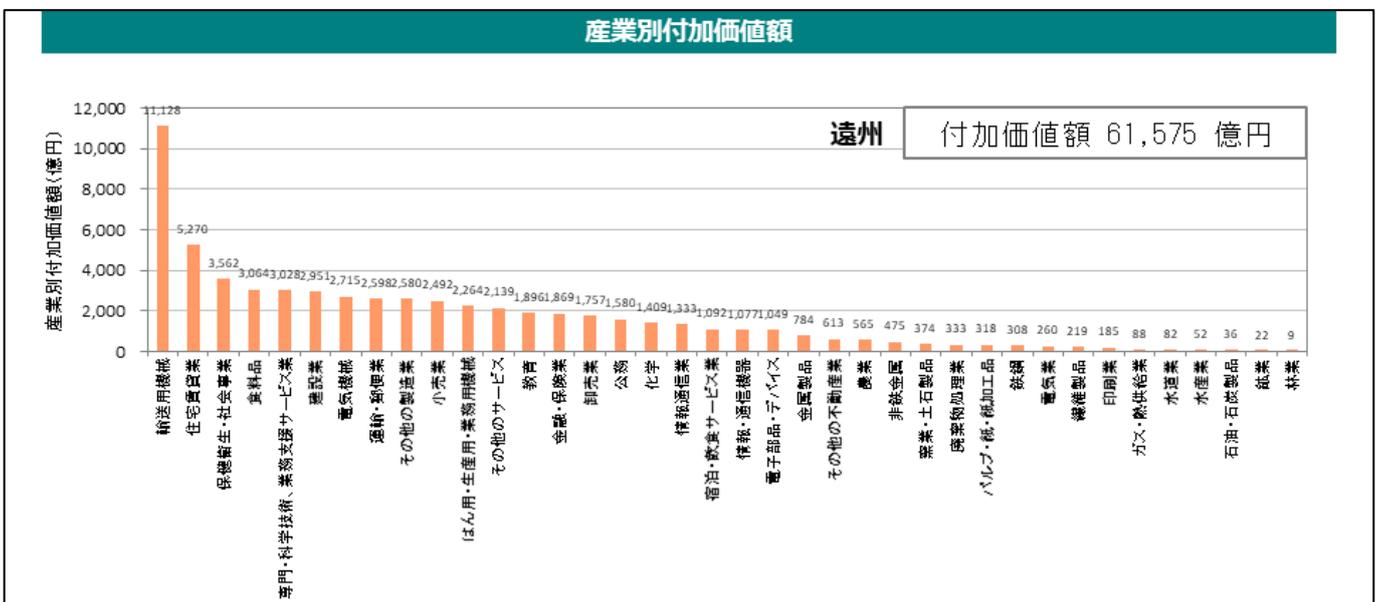


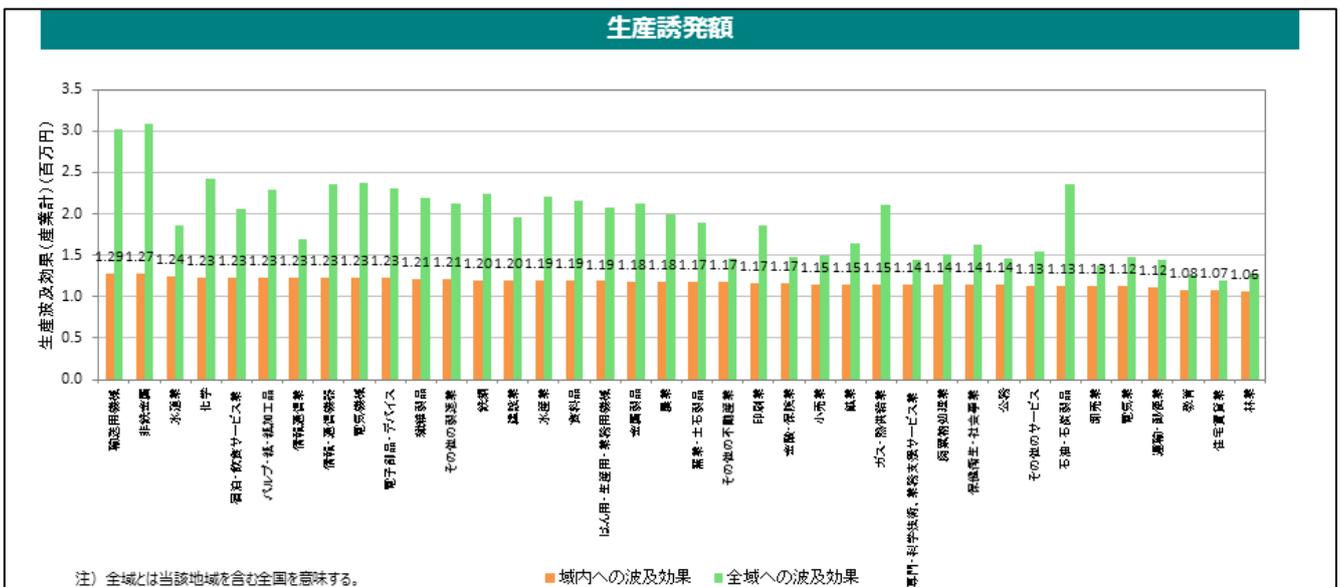
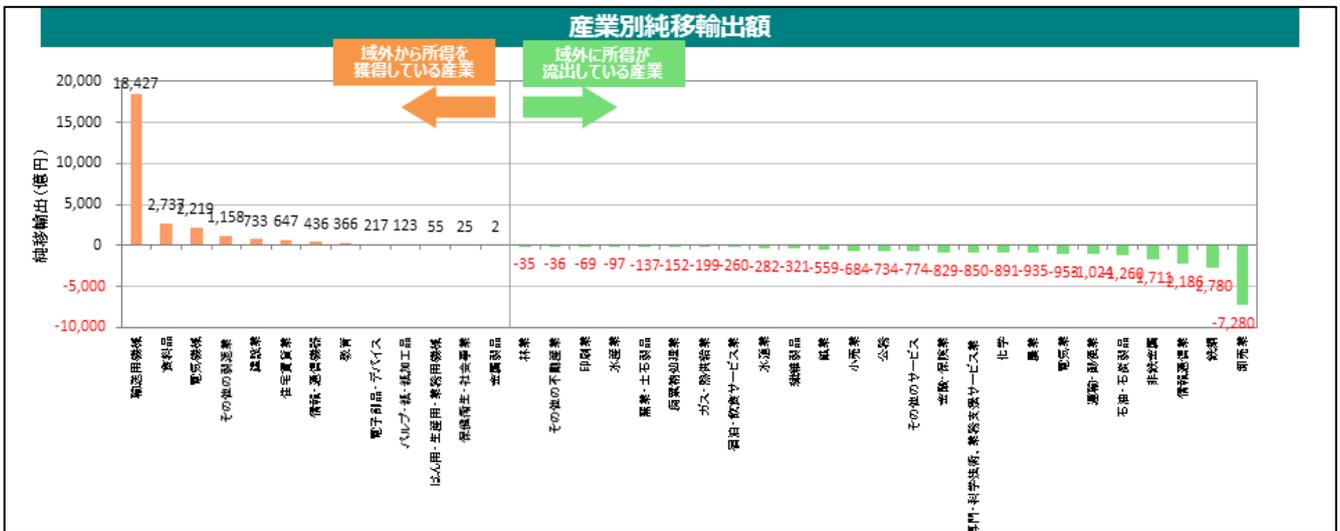
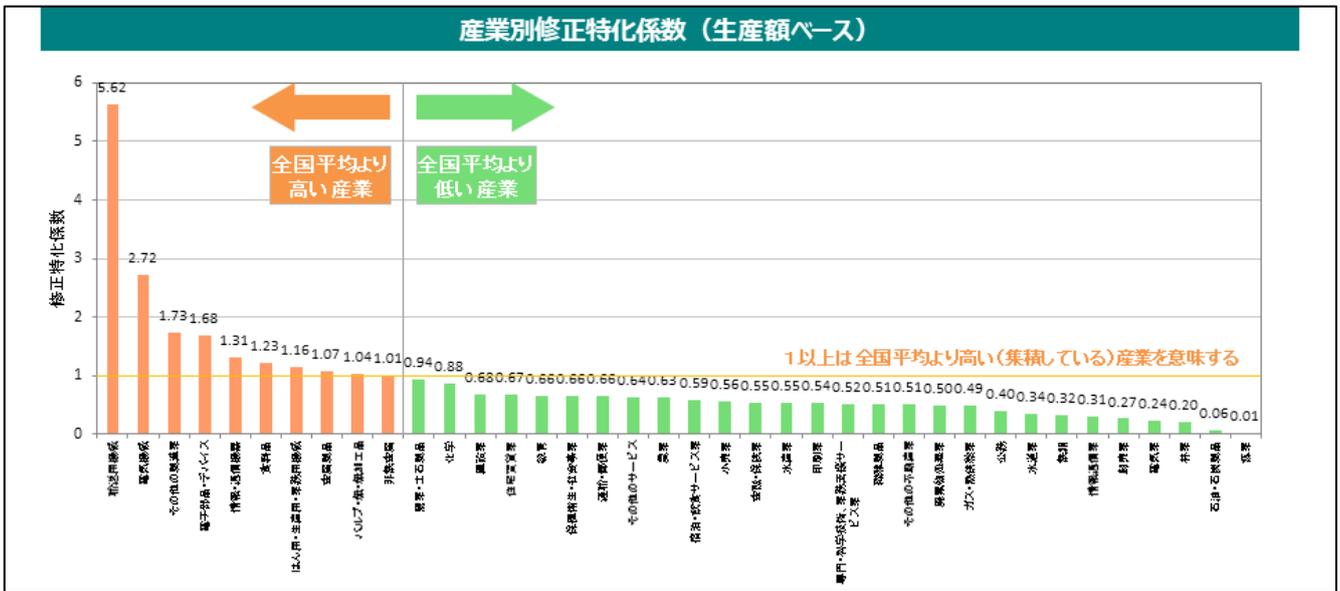
遠州地域の地域循環分析



1 生産・販売および産業構造の分析

- 遠州の生産・販売の付加価値は61,575億円である。産業別でみると、輸送用機械が11,128億円と最も稼いでおり、「稼ぐ」力の大きなウェイトを占めている。第2次産業では次いで食品製造業が、3番目では建設業が付加価値を稼いでいる。第3次産業では住宅賃貸業が最も付加価値を稼いでおり、次いで保健衛生・社会事業、専門・科学技術、業務支援サービス業が、三番目に運輸・郵便業が付加価値を稼いでいる。(P29)
- 労働生産性は901.8万円/人であり、全国平均との比較では同等の金額、全国順位でみると303位である。
- エネルギー生産性は105.7百万円/TJであり、全国の78.8百万円/TJよりも高く、全国順位は473位である。

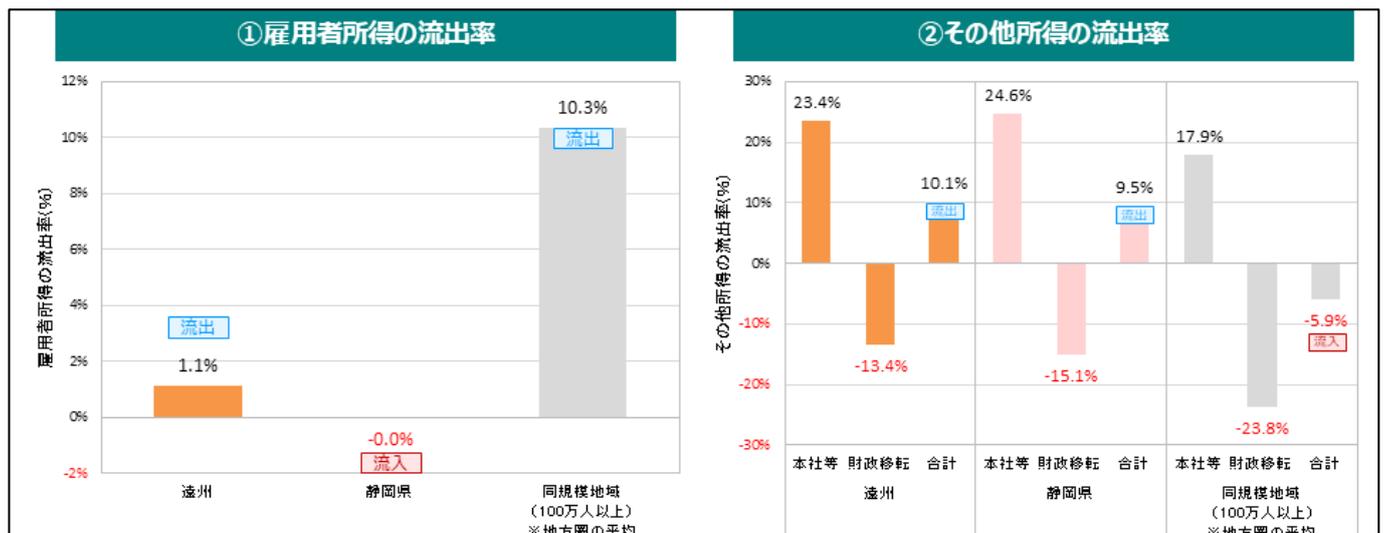
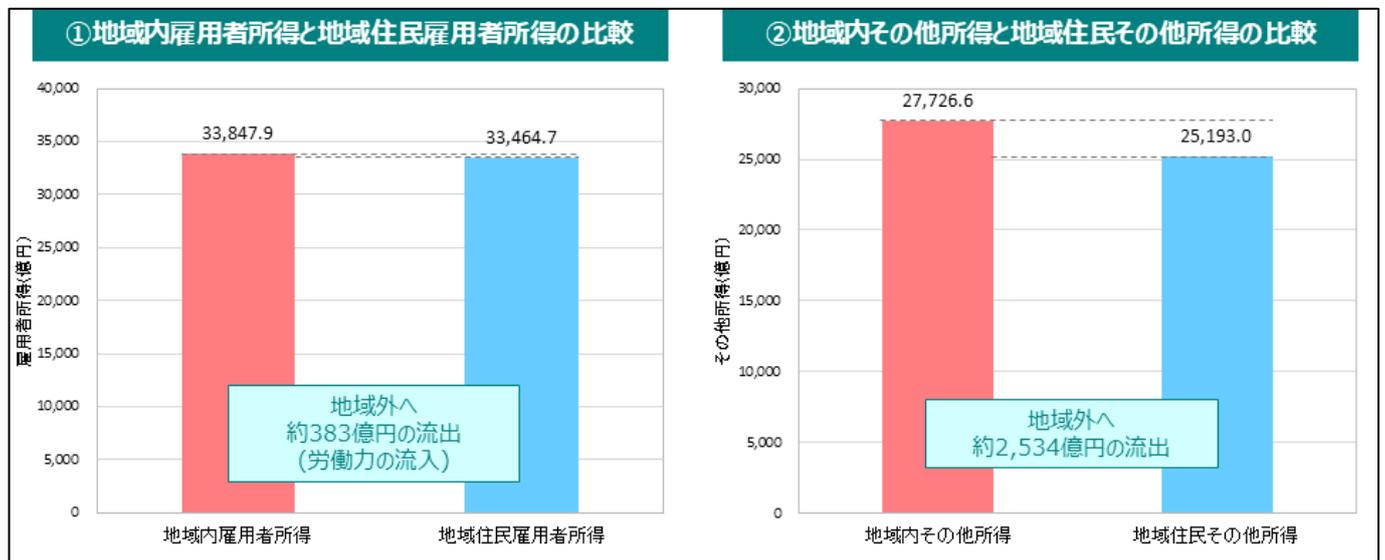




- 産業別修正特化係数をみると、全国と比較して得意な産業は、輸送用機械、電気機械、その他の製造業、電子部品・デバイス、情報・通信機器、食料品等である。(P26)
- 産業別移輸出額をみると、域外から所得を獲得している産業は輸送用機械、食料品、電気機械、その他の製造業、建設業、住宅賃貸業等である。これらは域内での付加価値が大きい産業でもあり、地域で強みのある産業である。
- 各産業の消費や投資が1百万円増加したときの域内への生産誘発効果は輸送用機械、非鉄金属、水道業等で高く、係数が大きい産業ほど域内への波及効果が高い。(P36)

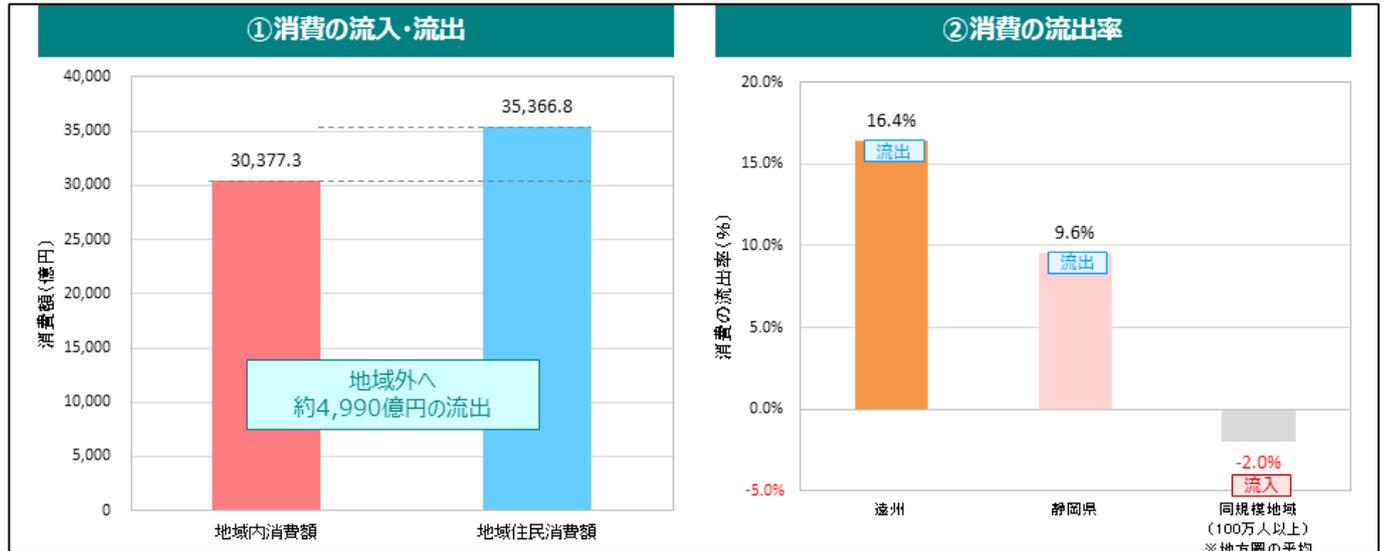
2 分配に関する分析

- 遠州の分配は 58,658 億円であり、生産・販売の 61,575 億円よりも 2,917 億円少ない。
- 流出と流入の内訳をみると、本社等への資金としては 5,897 億円が流出しており、その規模は GRP (域内総生産) の 9.6% を占めている。さらに、通勤に伴う所得としては 383 億円が流出しており、GRP の 0.6% を占める。一方、財政移転により 3,363 億円が流入しており、その規模は GRP の 5.5% を占めている。
- その結果として、遠州の 1 人当たり所得は 443.3 万円となり、全国平均の 418.1 万円よりも 25.2 万円高く、全国順位では 613 位である。
- 地域内雇用者所得と地域住民雇用者所得を比べると、地域内で企業が生産・販売で得た雇用者所得は 33,847.9 億円であり、雇用者所得が地域外へ 383.2 億円流出している。
- 地域内その他所得と地域住民その他所得を比べると、地域内その他所得が 27,726.6 億円となり、地域住民その他所得の 25,193.0 億円よりも 2,533.6 億円程度少なく、地域外へその他所得が流出している。(P46)
- 雇用者所得の流出率は 1.1% であり、地域外へ流出している。他地域との比較については人口同規模地域と比較すると遠州の流出率は低い水準である。その他所得の流出率は 10.1% が地域外へ流出している。本社等への流出率は県よりも高く、人口同規模地域では流入超過となっている。(P47)

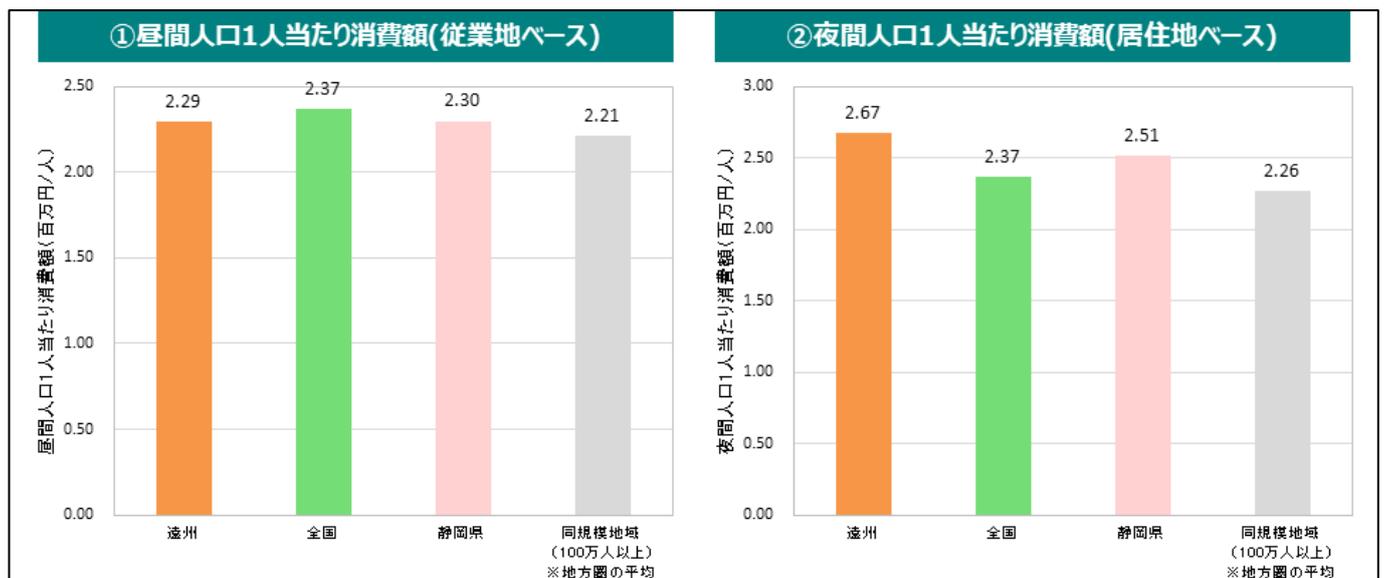


3 支出に関する分析

- ・ 遠州地域の住民の所得が地域内で消費されているかについては、地域内で消費される額が4,990億円流出しており、流出の規模はGRPの8.1%を占めている。
- ・ エネルギー代金は2,897億円流出しており、その規模はGRPの4.7%を占めている。
- ・ 一方で、移出入では7,935億円の流入となっており、経常黒字となっている。その規模はGRPの12.9%を占めている。輸送用機械、食料品、電気機械等が域外から所得を稼いでいる。
- ・ 消費の流出率をみると16.4%であり、県の9.6%と比べると流失率は高い。人口同規模地域では2.0%の流入超過となっている。(P55)

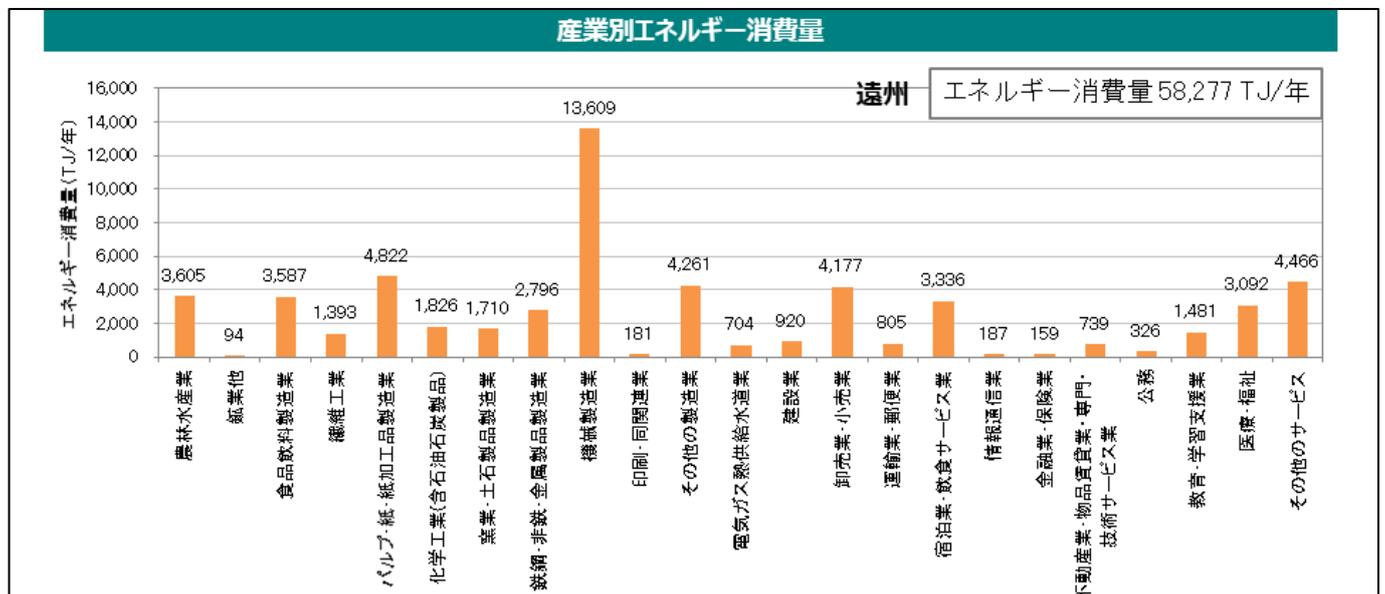
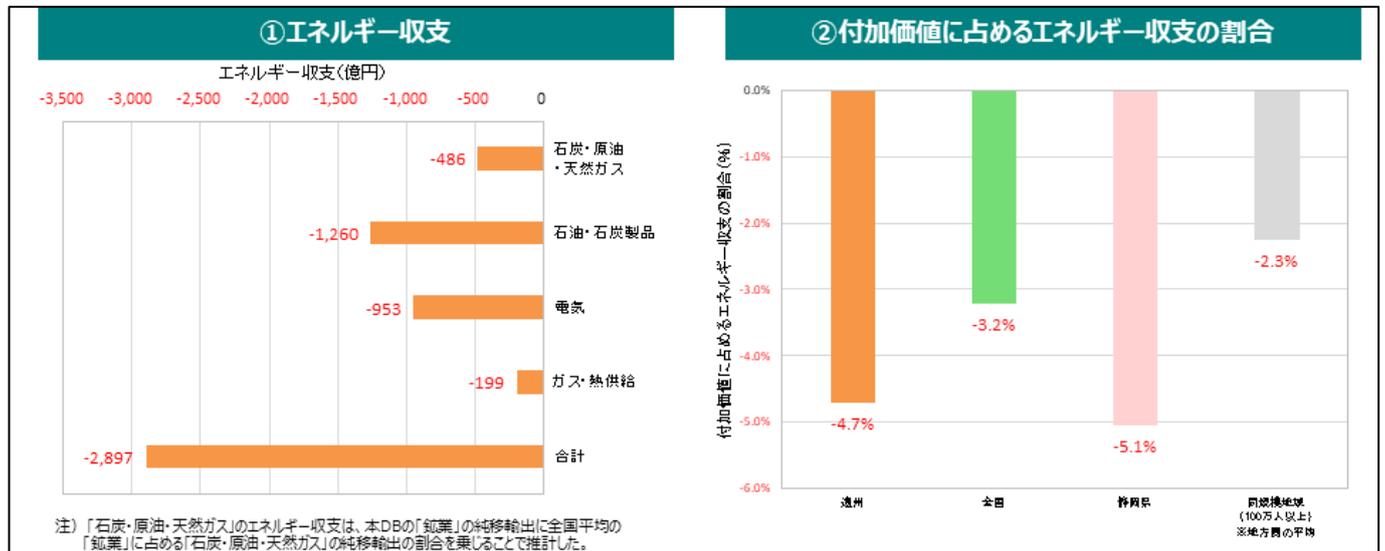


- ・ 消費を昼間人口一人当たりで見ると、遠州の従業地ベースの消費額は229万円となり、全国の237万円や静岡県の230万円と比べて低いが、同規模地域の221万円と比べると8万円高い。(P56)
- ・ 一方で遠州の夜間人口1人当たり消費額(居住地ベース)は267万円となり、全国、県、人口同規模地域と比較して高い水準であり、遠州ではどちらかという地域内での従業者より居住者の方が多く消費していると分かる。

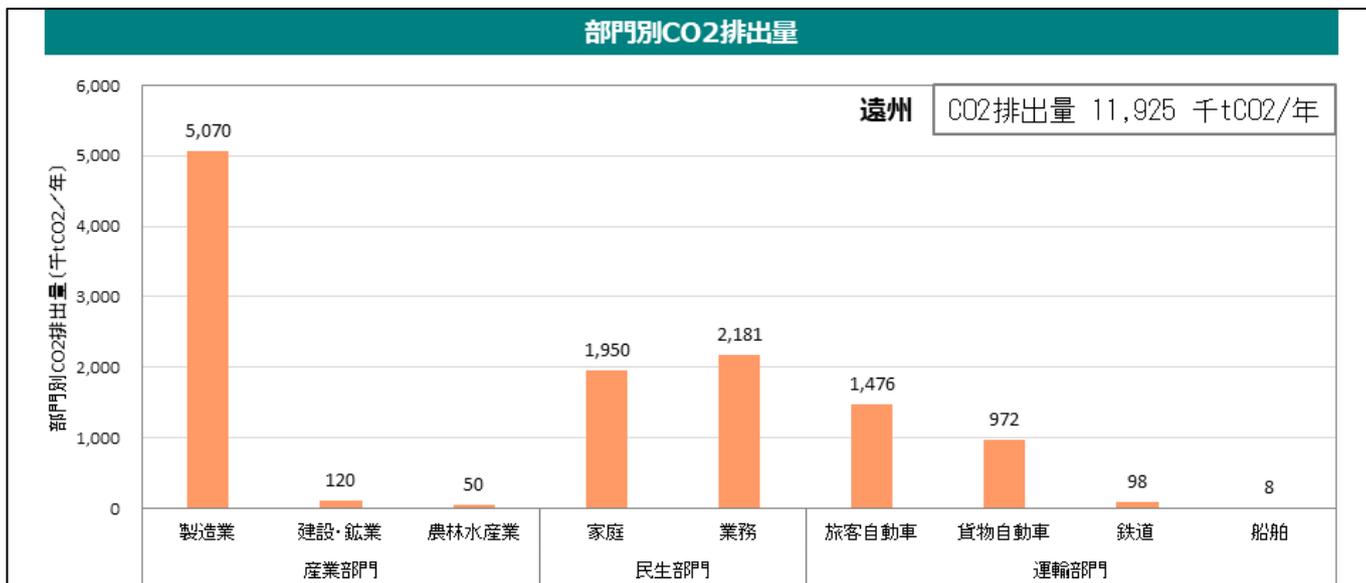


4 エネルギー消費量、CO2に関する分析

- ・ エネルギー収支は▲2,897 億円であり赤字となっている。エネルギーの内訳別では、すべての項目で赤字で、「石油・石炭製品」の赤字が最も大きい。
- ・ 付加価値に占めるエネルギー収支の割合は、-4.7%であり、県よりは赤字の割合が低いものの、全国や人口同規模地域と比較すると赤字の割合が高い。
- ・ エネルギー消費量は58,277TJ/年である。産業別にみると、機械製造業の13,609TJ/年が突出して多く、2番目～5番目のパルプ・紙・紙加工品製造業、その他のサービスなどは4千TJ/年台となっている。

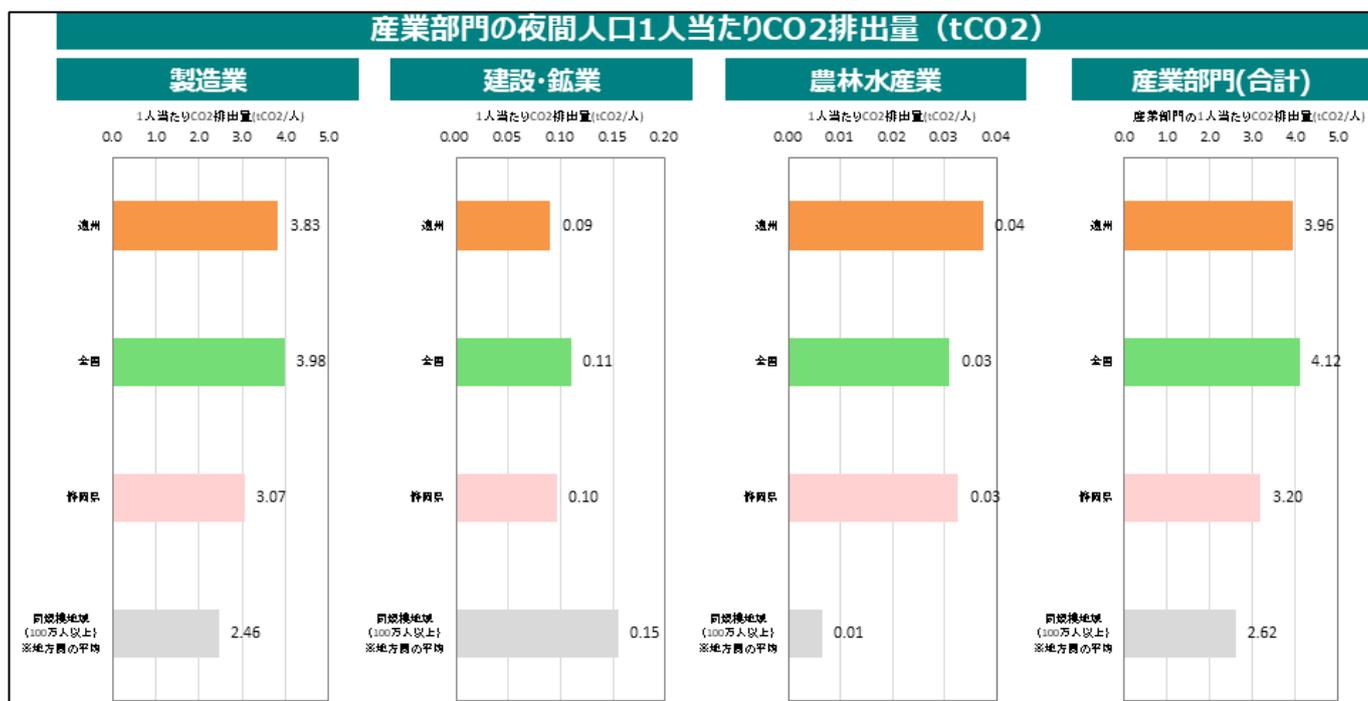


部門別CO2排出量

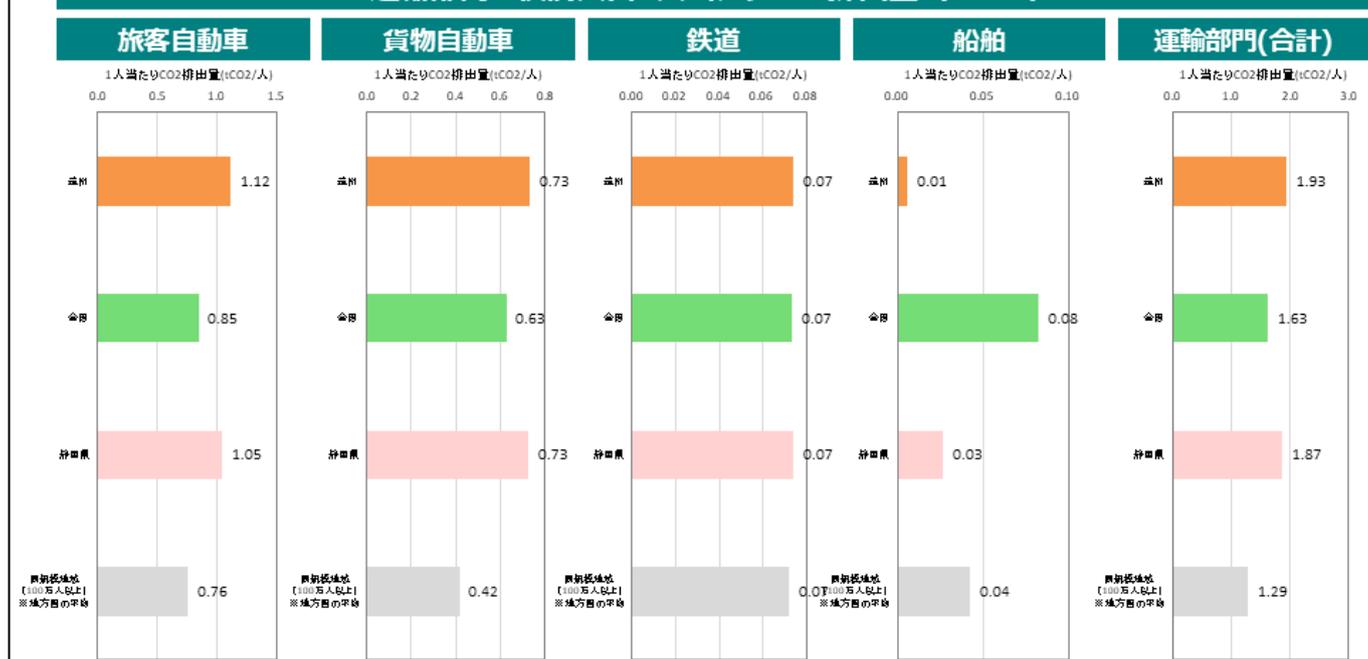


- ・ 企業や住民の活動によってCO2がどのように排出されているのか、活動内容の部門別にみると、CO2排出量が最も多い部門は製造業の5,070千tCO2/年であり、突出して多い。次は業務の2,181千tCO2/年であり、以下、家庭、旅客自動車と続く。(P72)
- ・ 産業部門の夜間人口1人当たりCO2排出量をみると、製造業が3.83tCO2/人であり、産業部門合計の3.96tCO2/人の大部分を占める。他地域と比べると、全国の3.98tCO2/人よりは少ないが、県や同規模地域と比べると多い。運輸部門の夜間人口1人当たりCO2排出量は1.93tCO2/人と、産業部門合計の約半分を占めており、運輸部門のなかでも旅客自動車が1.12tCO2/人と最も多い。
- ・ 民生部門の夜間人口1人当たりCO2排出量は3.12tCO2/人となっている。(P73)

産業部門の夜間人口1人当たりCO2排出量 (tCO2)



運輸部門の夜間人口1人当たりCO2排出量 (tCO2)



民生部門の夜間人口1人当たりCO2排出量 (tCO2)



環境省 地域経済循環分析自動作成ツールをもとに研究所加工作成